

## 「JENESYS2019」ASEAN

### カンボジア若手政治関係者招へい事業（招へいプログラム）の記録 （テーマ：日本の複数政党制民主主義、対象国：カンボジア）

#### 1. プログラム概要

JENESYS2019の一環として、7月17日～7月25日の8泊9日間の日程で、カンボジアの若手政治関係者10名が訪日しました。本訪日団は、「日本の複数政党制民主主義」をテーマに、東京都内で有識者による講義の聴講や立法・行政・司法関係機関を視察し、その後、山形県内の選挙管理委員会を訪問し、参議院選挙の投票および開票作業の実務について視察しました。また、米沢市上杉博物館では日本の歴史に触れ、浅草での茶道体験などを通じて、日本についての理解を深めました。このプログラムを通じて、カンボジアの次世代を担う若手政治関係者が、日本の複数政党制民主主義についての見識を深め、今後、自国の民主的の発展に貢献されることが期待されます。

#### 2. 日程

- 7月17日（水） 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション、有識者による講義（神奈川大学法学部大川千寿准教授）、カンボジア和平関係者との面会（明石康・元UNTAC代表）
- 7月18日（木） 都内にて衆議院視察、日本・カンボジア友好議員連盟表敬および最高裁判所の視察
- 7月19日（金）～ 7月21日（日）  
山形県訪問  
川西町選挙管理委員会によるブリーフおよび川西町期日前投票会場視察、街頭活動、山形市総合スポーツセンターにて参議院選挙投票作業の視察等
- 7月22日（月） 東京へ移動、浅草にて茶道体験等
- 7月23日（火） TEPIA先端技術館見学等
- 7月24日（水） 河野外務大臣表敬訪問、ワークショップ、報告会等
- 7月25日（木） 成田国際空港より出国

### 3. プログラム記録写真

	
<p>7月17日 オリエンテーション</p>	<p>7月17日【講義】 神奈川大学法学部大川千寿准教授</p>
	
<p>7月18日【訪問】 衆議院</p>	<p>7月18日【視察】 国会議事堂</p>
	
<p>7月18日【訪問】 日本・カンボジア友好議員連盟</p>	<p>7月18日【視察】 最高裁判所</p>



7月19日【視察】  
街頭応援演説



7月20日【ブリーフ】  
川西町選挙管理委員会



7月20日【視察】  
川西町期日前投票所



7月21日【視察】  
参議院選挙投開票



7月22日【体験】  
浅草 茶道体験



7月24日【表敬】  
河野外務大臣

	
<p style="text-align: center;">7月24日 報告会</p>	

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ 私が今回の訪日で一番強く印象に残ったのは、日本人の愛国心、コンプライアンス、連帯感、勤勉さ、責任感である。  
また民主主義に関して、小選挙区及び比例代表制についてや、公平・公正な選挙運動、政治家がメディアや司法に対して影響を及ぼすことができないこと、与党と野党が国のために一緒に仕事をするができること、政府がメディアおよび一般国民に対して誠実に回答していることなどである。  
国民が何の心配もなく政府に対して意見を述べることができ、政府の活動を監視することができる。
- ◆ この視察プログラムを通じて、カンボジアにとって、とても参考になったのは日本の憲法による民主主義、自由な主張の保証、国の発展のための与野党の役割分担である。具体的にはインフラ整備、日本の経済、環境、産業、農業、建設、人権分野などで、さらに選挙制度、開票制度、選挙運動などは、非常に透明性が高く、正確で公平・公正が確保されている。まさに法治国家であると感じた。
- ◆ この1週間で日本の政治、民主主義、社会など多くの経験及び知識を得ることができた。私としてできることは、この1週間の研修で得た情報や知識を人々に広めることである。  
最後に日本政府は私たちにこのような政治を勉強する機会を与えていただいたことに対して感謝する。このことを一生記憶にとどめたい。

## 5. 参加者の対外発信

<p>明石康・元 UNTAC 代表との面会、カンボジアの平和へのプロセスについての発信。</p>	<p>参議院選挙投開票作業についての発信。</p>

## 6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

- 選挙の実施、選挙事務所の設置、選挙運動など、日本で得た経験を応用していく。
- 民主主義、選挙、メディアの報道、共通の利益についての分析・協議、そして選挙運動（小選挙区制と比例代表制）、環境、文化、技術、経済について周囲に共有していく。
- 日本で得た知識（民主主義、司法、選挙制度）をカンボジア人と共有していく。
- 日本の民主主義及び文化をカンボジアの若者と共有していく。
- 環境問題、社会秩序、文化などをカンボジア人と共有し、国民の問題を政府と一緒に解決していく。